小牧基地航空祭でブルーインパルス
反対の取り組み

# 戦争法に反対するとともに、自衛隊の現場でも声をあげましょう

毎年、10 月に行われている小牧基地の航空祭が、今年度は３月に開催となった。この航空祭で、長年反対の声が大きく開催されていなかったブルーインパルスの展示飛行が開催されてしまった。航空自衛隊の基地で航空祭が行われていないのは小牧基地のみであったが、今回油断をしてしまった。

2009 年に、開催するという動きがあり、関連する小牧市、春日井市、豊山町の周辺自治体や、私たち市民団体などが反対の取り組みを行い、開催が断念された経緯があった。一昨年の 10 月に行われた航空祭では、前後して行われた「国際航空宇宙展」に合わせて小牧基地が後方基地として活用され、曲芸飛行はしないものの、基地内に展示をされるというところまできていました。

今回の開催は、２月 26 日に、小牧基地のホームページと新聞紙上で初めて開催が明らかになりました。それによると昨年 11 月に、小牧基地から春日井の住民で作る「春日井市飛行場周辺対策市民協議会」に航空祭での開催の意向の打診があったとのことで、それに対して同協議会は１月に開催に反対の旨を基地に対して申し入れている。周辺の３自治体も開催に反対を基地に対して申し入れており、今回の開催は周辺自治体、住民の意向を無視した暴挙と言えます。

これに対して、不戦へのネットワークは急遽小牧基地と愛知県の航空対策課、春日井市に対して申し入れや交渉を行った。周知のように、小牧基地の滑走路は県営名古屋空港が管理・運営権を持ち、自衛隊が着陸料を支払い借用している。航空対策課は、いままでの私たちの交渉の場で常に「周辺自治体の意向を尊重する」と言い続けてきた。本来、滑走路を管理・運営する県がもっと影響力を持つべきだと思うが、今回も県は全く当事者意識はなかった。担当者が代わっていたこともあるが、交渉の場で「小牧基地との共用の滑走路」と発言したり、過去、他の空港でイラクへの物資輸送のためのアントノフ（ロシアの大型輸送機）を拒否したことや、自衛隊の航空機の利用を拒否した実績があることなどこちらが指摘するまで知らなかった。

今回、航空自衛隊はかなり積極的に自治体に働きかけたようだ。このような中で春日井市は強硬に反対の意向を示し、当日の飛行は春日井市の上空は飛ばないとか、水平飛行のみを行った。飛行をすることには変りはないといえばそうだが、反対の意思を示せば結果は出るということの表れであるとも思う。

小牧基地は市街地の中心にある。ブルーインパルスの展示飛行で、過去浜松基地で住宅地に墜落事故をおこしたり、宮城県沖では訓練中に事故を起こしている。住宅が密集する上空で事故が起これば重大な結果を招く。

そもそも、ブルーインパルスは、自衛隊の広報活動を担っているもので「自衛隊・防衛問題に対する国民の関心を高め、理解と納得を得る」ことを目的としたものだ。安倍政権のもとで、憲法解釈を恣意的に変え「戦争をする国家」作りに突き進む中で、「自衛隊」が「我が軍」へと変容していかざるを得ない。このブルーインパルスは自衛隊の存在、任務を容認する役割を果たします。

航空祭当日、小牧基地正門前でチラシを撒いた。参加者は家族連れからカップル、迷彩服を着た航空機オタクのような人までたくさんの人が参加していた。自衛隊の隊友会か右翼なのか私たちのビラまきに罵声を浴びせて嫌がらせをし、横断幕を上げて来年以降の開催を呼びかける一幕もあった。

派兵拠点として機能してきた小牧基地の役割は、安倍政権の「戦争法」の推進で、今後ますます重要になってくると思う。法整備に反対するとともに、自衛隊の現場でも反自衛隊の声を届けていく必要があると思う。

山本みはぎ

模擬空中給油

ブルーインパルス